

日鉄住金工材

次世代電着ドラム出荷

表面品質さらさらに向

【上越】ステンレス・チタン・特殊合金を加工販売する日鉄住金工材（本社：新潟県上越市、石川昌弘社長）は、独自に開発した次世代の電着銅箔製造用チタン製電着ドラムの初号機を今年3月に出荷した。すでに2号機以降の受注も決定しており、国内外の電着銅箔メーカーに順次納入する予定だ。

電着銅箔は陰極の電着ドラムと陽極に硫酸銅液を介して電気を流しながらドラムを回転させることで、ドラム表面に銅を電着させて造る。電着ドラムの性能が銅箔の品質を大きく

電着銅箔メーカーに納入

く左右する要素の一つ。電着ドラムの製造技術で欠かせないのが、銅を電析させるトップスキンの品質だ。日鉄住金工材は親会社の新日鉄住金から供給された電着ドラム専用のチタン板材をリング状に加工後、溶接し

面に転写される溶接部と母材部の表面外観品質の差異が極めて小さいことが評価され、同社の世界シェアは推定70%に上る。国内メーカーに限ってはチタン製ドラムを使う全メーカーに供給する。独自に開発した次世代の電着ドラムは、従来製品よりさらに溶接部と母材部の表面外観

品質の差異を縮小。目視による見分けが困難なトップスキんに仕上げたのが特長。主に極薄銅箔のさらなる高品質化に貢献する電着ドラムとして、スマートフォンやリチウムイオン電池などハイエンド向けの電着銅箔を展開する国内外メーカー向けに拡販する方針だ。